

# 2015年3月期 本決算概要

2015年5月14日

千代田化工建設株式会社

# 1. 業績概要

単位：億円

	14年3月期	15年3月期	前年 同期比	伸び率
受注高	5,899	7,468	1,569	26.6%
完成工事高	4,461	4,810	348	7.8%
営業利益	211	215	4	1.8%
経常利益	228	223	△6	△2.5%
当期純利益	134	110	△24	△18.0%
包括利益	130	151	21	16.0%
一株あたり配当	16.0 円	13.0 円		
為替レート	102 円/\$	120 円/\$		

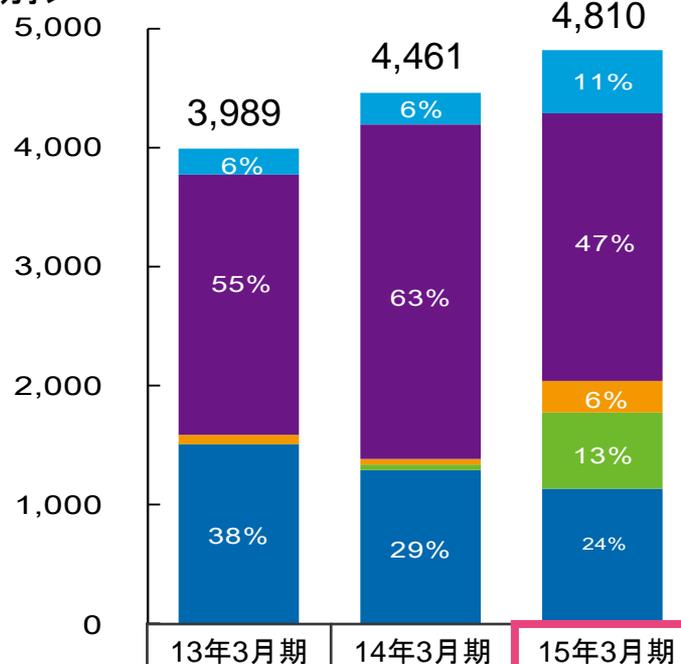
期首 通期予想	達成率
8,000	93.3%
4,650	103.4%
190	113.0%
210	106.1%
135	81.7%
16.0 円	
120 円/\$	

史上二番目の受注高、ロシアの大型LNG案件が寄与。

各利益項目は、当期純利益を除いて期首予想を上回るも、前年対比では経常利益、当期純利益が減益。

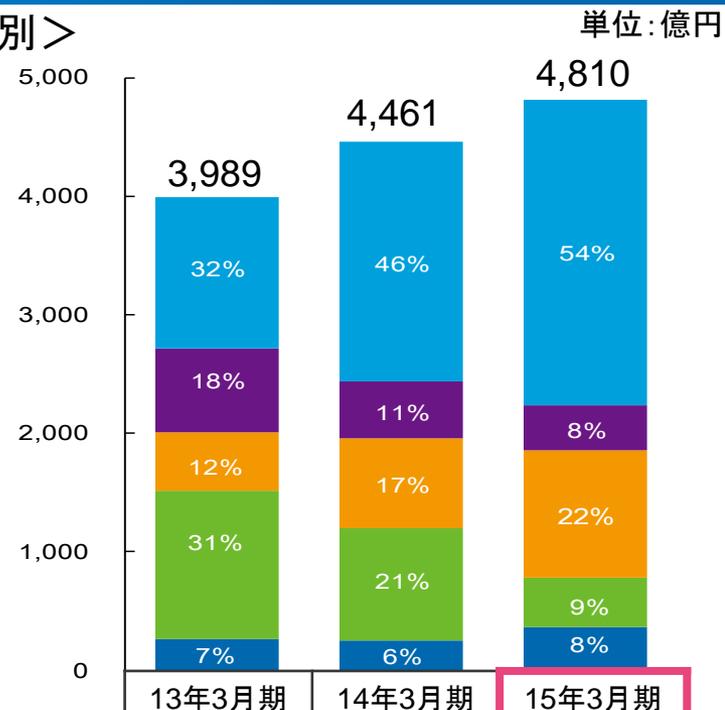
## 2. 完成工事高

<地域別>



■ 中近東・アフリカ	220	263	518
■ アジア・オセアニア	2,184	2,820	2,245
■ 北中南米	76	33	274
■ その他	2	58	640
海外 合計	2,481	3,174	3,676
国内 合計	1,508	1,287	1,133

<分野別>



■ LNG	1,284	2,030	2,579
■ その他ガス関係	697	475	380
■ 石油・石油化学	496	760	1,067
■ 一般化学・産業設備	1,256	943	419
■ 資源・環境・その他	261	253	365

地域別: アジア・オセアニアはパプアニューギニアとマレーシアの大型案件の完成に伴い金額、シェアともに減少。

分野別: LNG分野の伸長が続く。豪州に加えロシア、北米案件も進捗。

### 3. 利益関連項目

単位: 億円

	14年3月期	15年3月期	前期比
完成工事総利益	415 9.3%	457 9.5%	42 0.2pt
販売費及び一般管理費	△204	△242	△38
営業利益	211 4.7%	215 4.5%	4 △0.2pt
営業外損益	18	8	△10
経常利益	228 5.1%	223 4.6%	△6 △0.5pt
特別損益・税金・少数株主利益	△94	△112	△19
当期純利益	134 3.0%	110 2.3%	△24 △0.7pt

完成工事総利益率：国内で一部不採算案件発生、完成済み、および遂行中案件の採算改善により前年比を上回った。

販売費増：海外グループ会社のれん償却に加え、IT関連の戦略的費用による。

税金等増額：法人税減税に伴う繰延税金資産の取り崩し、および一部海外グループ会社の業績不振による。

# 4. バランスシート

単位: 億円

	14年3月末	15年3月末	増減
<b>【流動資産】</b>	<b>4,091</b>	<b>4,446</b>	<b>355</b>
現金及び預金等 * 1	1,454	1,133	△321
営業資産三勘定 * 2	1,068	1,135	67
JV持分資産 * 3	1,275	1,829	554
その他	294	349	55
<b>【固定資産】</b>	<b>662</b>	<b>713</b>	<b>51</b>
有形固定資産	150	148	△1
無形固定資産	195	195	△0
投資等	317	370	52
<b>【資産】</b>	<b>4,753</b>	<b>5,158</b>	<b>406</b>

	14年3月末	15年3月末	増減
<b>【流動負債】</b>	<b>2,617</b>	<b>2,943</b>	<b>327</b>
短期借入金	13	10	△3
営業負債三勘定 * 4	2,256	2,615	359
工事損失引当金	40	40	△0
その他	308	278	△30
<b>【固定負債】</b>	<b>156</b>	<b>131</b>	<b>△25</b>
長期借入金	100	100	△0
その他	56	31	△25
<b>【純資産】</b>	<b>1,980</b>	<b>2,084</b>	<b>104</b>
<b>【負債・純資産】</b>	<b>4,753</b>	<b>5,158</b>	<b>406</b>
<b>【自己資本】</b>	<b>1,964</b>	<b>2,064</b>	<b>100</b>
<b>【自己資本比率】</b>	<b>41.3%</b>	<b>40.0%</b>	<b>△1.3pt</b>

**【注】**

- \* 1 現金及び預金等＝現金預金＋有価証券(譲渡性預金等)
- \* 2 営業資産三勘定＝受取手形・完成工事未収入金＋未成工事支出金
- \* 3 JV持分資産: ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
- \* 4 営業負債三勘定＝支払手形・工事未払金＋未成工事受入金

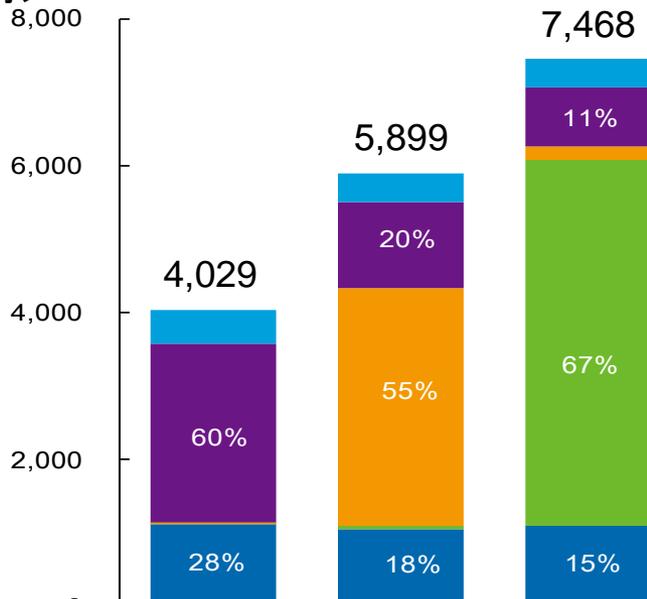
現金及び預金減: 通常の工事収支と配当金および税金の支払い。

JV持分資産増: 複数の大型案件遂行に伴う出入金のバランスで増加。

純資産増: 当期純利益110億円、支払い配当金41億円等。

# 5. 受注高

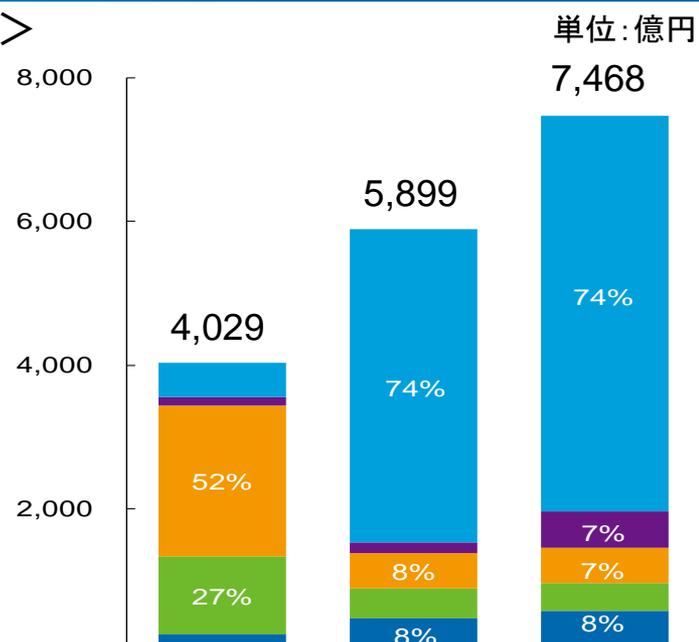
<地域別>



13年3月期 14年3月期 15年3月期

■ 中近東・アフリカ	459	379	386
■ アジア・オセアニア	2,432	1,171	824
■ 北中南米	19	3,244	167
■ その他	2	58	4,982
海外 合計	2,912	4,852	6,358
国内 合計	1,117	1,047	1,110

<分野別>



13年3月期 14年3月期 15年3月期

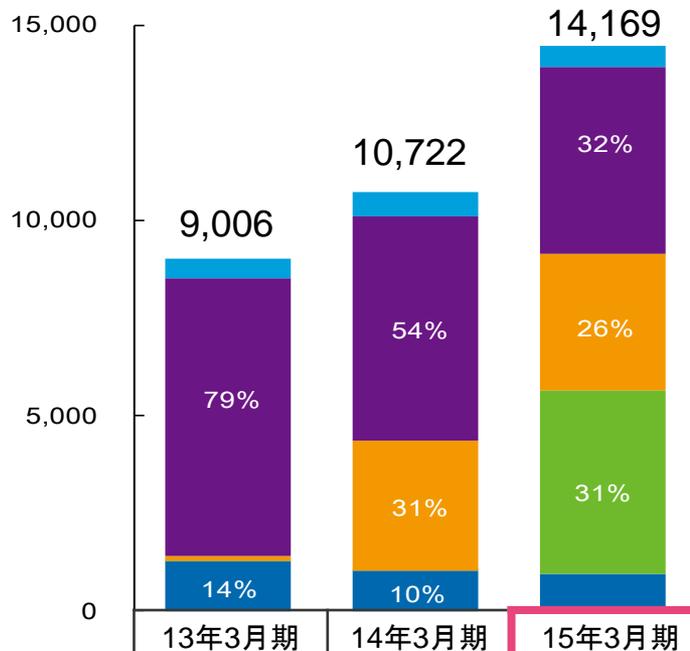
■ LNG	472	4,370	5,508
■ その他ガス関係	112	143	496
■ 石油・石油化学	2,106	492	491
■ 一般化学・産業設備	1,078	410	396
■ 資源・環境・その他	261	484	577

ロシアの大型LNGにより、「その他」地域及び「LNG」分野が大幅に伸長。  
 インドネシアでのオフショアEPCI\*、フィリピンでの空港、サウジアラビアでのスポンジタン案件等。  
 国内は中小案件の積み上げにより、期首想定を上回る水準。

\* EPCI : Engineering, Procurement, Construction and Installation

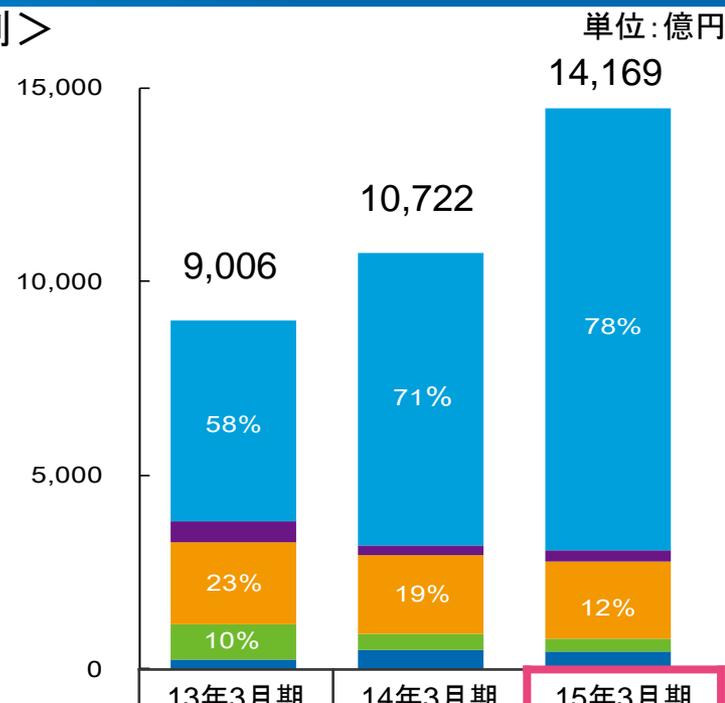
# 6. 受注残高

<地域別>



	13年3月期	14年3月期	15年3月期
■ 中近東・アフリカ	502	612	549
■ アジア・オセアニア	7,090	5,729	4,565
■ 北中南米	135	3,348	3,709
■ その他	1	1	4,343
海外 合計	7,728	9,690	13,167
国内 合計	1,278	1,032	1,002

<分野別>



	13年3月期	14年3月期	15年3月期
■ LNG	5,212	7,556	11,030
■ その他ガス関係	547	216	333
■ 石油・石油化学	2,086	2,034	1,700
■ 一般化学・産業設備	906	426	331
■ 資源・環境・その他	255	491	776

LNGが続伸し、史上最高の水準。

アジア・オセアニア、北中南米、その他の3地域に分散。

## 7. 2016年3月期 通期業績予想

単位：億円

	15年3月期 実績	16年3月期 予想	前期比	伸び率
受注高	7,468	3,500*	△3,968	△53.1%
完成工事高	4,810	6,000	1,190	24.7%
営業利益	215	200	△15	△7.0%
経常利益	223	220	△3	△1.3%
当期純利益	110	120	10	9.1%
配当	13.0 円	14.0 円	1.0 円	
為替レート	120 円/\$	120 円/\$		

\* 予想受注高には、米国Freeport Tr-3以外のLNG案件は織り込んでいない。

## 8. 2016年3月期 通期業績予想の内訳

単位：億円

	15年3月期 実績	16年3月期 予想	前期比
<b>受注高</b>	<b>7,468</b>	<b>3,500</b>	<b>△3,968</b>
海外	6,358	2,300	△4,058
国内	1,110	1,200	90
<b>完成工事高</b>	<b>4,810</b>	<b>6,000</b>	<b>1,190</b>
海外	3,676	4,800	1,124
国内	1,133	1,200	67
<b>完成工事総利益</b>	<b>457</b>	<b>460</b>	<b>3</b>
販売費及び一般管理費	△242	△260	△18
<b>営業利益</b>	<b>215</b>	<b>200</b>	<b>△15</b>
営業外損益	8	20	12
<b>経常利益</b>	<b>223</b>	<b>220</b>	<b>△3</b>
特別損益・税金・少数株主利益	△112	△100	12
<b>当期純利益</b>	<b>110</b>	<b>120</b>	<b>10</b>

## 9. 経営指標

	12年 3月期	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年3月期 予想
完成工事総利益率(%)	15.3	10.7	9.3	9.5	7.7
完成工事高販管費率(%)	5.8	4.4	4.6	5.0	4.3
完成工事高営業利益率(%)	9.5	6.3	4.7	4.5	3.3
完成工事高経常利益率(%)	9.3	6.4	5.1	4.6	3.7
完成工事高当期純利益率(%)	5.6	4.0	3.0	2.3	2.0
総資産経常利益率<ROA>(%)	6.6	6.4	5.0	4.5	
自己資本当期純利益率<ROE>(%)	8.9	9.0	7.0	5.5	
一株当たり当期純利益<EPS>(円)	55.44	62.06	51.91	42.58	
一株当たり純資産<BPS>(円)	648.95	727.24	758.31	796.89	
自己資本比率(%)	46.0	43.3	41.3	40.0	
流動比率(%)	165.5	166.3	156.3	151.0	
固定比率(%)	27.0	27.7	33.7	34.5	
負債純資産倍率<DER>(倍)	0.06	0.05	0.06	0.05	

# 経営現況報告

千代田化工建設株式会社  
代表取締役社長 澁谷 省吾

# 15年3月期 完成工事高に含まれる主な案件

## ◆ LNG・ガス分野

- オーストラリア・アメリカ・ロシア LNGプラント建設工事
- カタール 千代田アルマナ社 長期EPCm\*業務
- 国内 LNG受入基地(複数件)

## ◆ 石油・化学・資源分野

- ベトナム 製油所・石油化学コンプレックス建設工事
- カタール 製油所建設工事
- 国内製油所・化学プラント更新工事

## ◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- モンゴル 新国際空港建設工事
- 国内 医薬研究施設建設工事
- 国内 メガソーラー建設工事(複数件)
- 設備診断、自然災害対策コンサル業務、O&M
- オフショア・アップストリーム スタディ・コンサルティング業務

# 15年3月期 受注高に含まれる主な案件

## ◆ LNG・ガス分野

- ロシア ヤマル LNG EPC業務
- LNG スタディ・基本設計業務
- 既受注LNG案件 追加工事
- カタール 千代田アルマナ社 長期EPCm業務

## ◆ 石油・化学・資源分野

- サウジアラビア スポンジチタン製造プラントプラント建設業務
- 国内 製油所・化学プラント更新工事

## ◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- フィリピン ボホール 新国際空港建設工事
- 国内 医薬品ワクチン製造設備・ジェネリック医薬品製造建設工事
- 国内 メガソーラー建設工事(複数件)
- 設備診断(国土強靱化対策)、O&M
- オフショア・アップストリーム スタディ・コンサルティング業務

# 中計「時代を捉え、時代を拓く」 ふり返りと今後

## ◆ 折返し地点での中期経営計画ふり返り

- コア事業であるLNG分野は順調に推移。
- 石油・化学・資源分野は事業及び地域の選択と集中を図り、当社独自の技術・ノウハウ・知見を活かせる案件に注力。
- 新規事業は次々に手を打って進んではいるが、収益貢献にはまだ時間が必要。

昨今の原油価格下落など、取り巻く環境が大きく変わる中、この変化を捉え、一歩先を見据えて、一層のスピード感で新たな時代を切り拓いていかねばならない。

# 中計「時代を捉え、時代を拓く」 ふり返りと今後

## ◆ 今後の遂行体制と重点施策

- LNG分野は2016年度までを見越した案件の見極めと、トップ地位を維持するための更なる技術研鑽に励む。
- 石油・化学・資源分野は東南アジアオペレーション強化、資源分野の深掘りを推進し、事業の安定と拡大を図る。
- オフショア・アップストリーム、インフラ、水素分野等で、これまでにまいた種を着実に芽吹かせ、収益に結び付ける。
- 今後成長が見込まれるライフサイエンス分野で、医薬・医療設備EPCコントラクターのトップランナーを目指す。

# 今後の受注見通し

## ◆ 受注取組方針

- 2015年度は豊富な手持ち工事では確実に収益を上げ、リスクの高い案件は深追いしない。
- 2016年度にかけてFID(最終投資判断)が下される案件を確実に確保していく。
- LNG以外の分野の伸長を図る。

## ◆ LNG・ガス分野

- LNG案件/ FEED案件及びEPC
- 海外拠点案件(カタール・米国他)/ EPCm及びEPC案件

## ◆ 石油・化学・資源分野

- 東南アジア 資源(非鉄金属)案件FEED及びEPC
- 海外拠点案件(シンガポール・インドネシア他)/ EPCm及びEPC
- 国内顧客の海外進出案件FEED及びEPC
- 国内 設備新設・更新案件/ FEED及びEPC

# 今後の受注見通し

---

## ◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- 太陽光発電案件
- 社会インフラ案件(鉄道・空港関連設備等)
- 国内環境設備案件

## ◆ 新たな取り組み分野

- オフショア・アップストリーム案件
- ライフサイエンス案件(医薬・医療設備)

## 【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社  
IR・広報・CSR セクション SL 中山 直行

〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号  
みなとみらいグランドセントラルタワー

TEL. 045-225-7734 FAX. 045-225-4962  
URL <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>

この資料には、2015年5月14日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。  
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。



© Chiyoda Corporation 2015, All Rights Reserved.

